



EVILS FOREST

mothy

AKNP-0003

1. 森へようこそ (instrumental)
2. master of the graveyard
3. moonlit bear
4. 最後のリボルバー
5. ハートビート・クロックタワー (FOREST VERSION)
6. 円尾坂の仕立屋
7. ザ・エノミア公の狂気
8. 無口な君へ
9. 白ノ娘
10. ネジと歯車とプライド
11. トワイライトブランケ (feat. 鏡音リン・レン)

2010 mothy All rights reserved.

COMPACT
DIGITAL AUDIO

このCDを権利者の許可なく複製・転載・貸出・譲渡・販売・複製すること、
また個人的な目的を超えて複製・転載・貸出・譲渡・販売・複製すること、
およびネットワーク等を通じて送信できる状態にすることは著作権法で禁じられています。

EVILS FOREST

mothy

AKNP-0003



コレクター

「収集家」ガレリアン・マローロンの死後
彼の莫大な遺産の大半が
行方不明となっている

彼が生前集めていた「収集品」は
金銭的価値のないガラクタばかりであったが、
それらは唯一の友人である脚本家「Ma」に相続された

数日後、「Ma」は人前から姿を消した

それから数年たったある日、通称「千年樹の森」にて
「Ma」の姿が目撃された

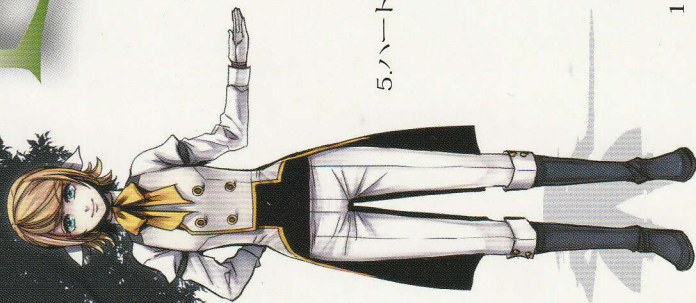
同時に「千年樹の森」の奥深くに建てられた小さな映画館に
「収集家」の遺産が隠されているという噂が流れ始めた

一攫千金を夢見て多くのものが森へ入っていった
そして誰ひとり戻ってこなかった

いつしか「千年樹の森」は人々からこう呼ばれるようになった

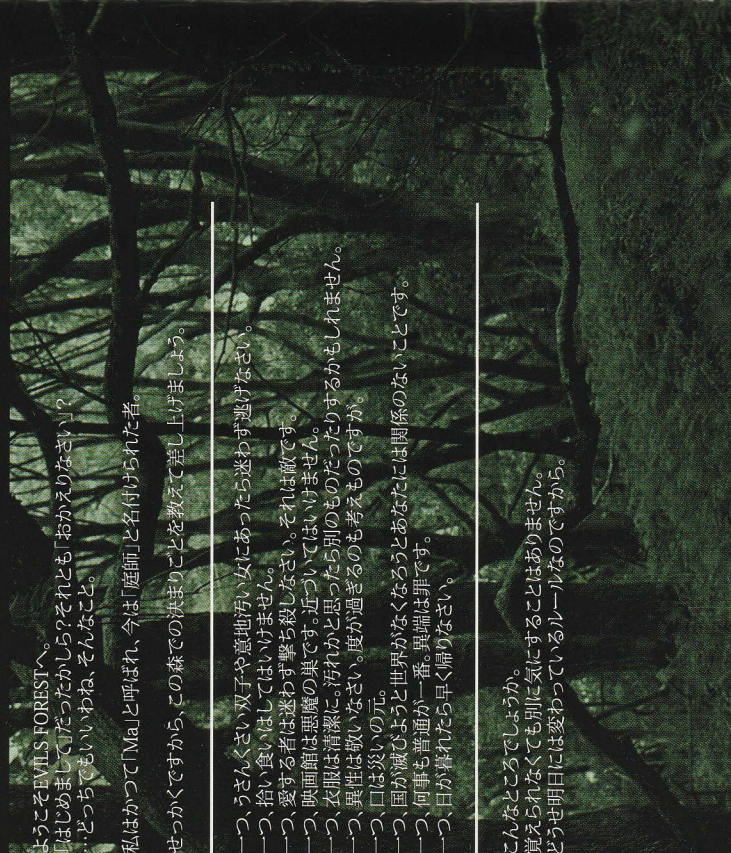
「EVILS FOREST」と...

EVILS FOREST



1. 森へようこそ (instrumental)
2. master of the graveyard
3. moonlit bear
4. 最後のりぼルノバー
5. ハートビート・クロックタワー (FOREST VERSION)
6. 円尾坂の仕立屋
7. ゴエノマニア公の狂気
8. 無口な君へ
9. 白ノ娘
10. ネジと歯車とプラライド
11. トワイライトプラシク (feat. 鏡音リン・レン)

1.森へようこそ (instrumental)



ようこそEVILS FORESTへ。
はじめまして。だいたったかしら？それとも「おかえりなさい」？
..どっちでもいいわね、そんなこと。

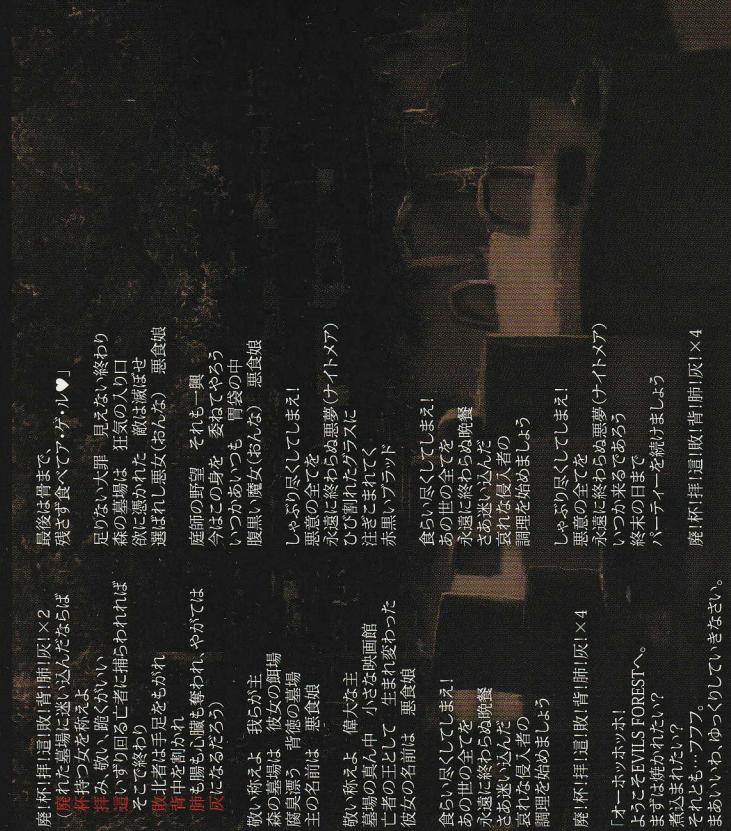
私はかつて「Ma」と呼ばれ、今は「庭師」と名付けられた者。
せつかくてから、この森での決まりごとを教えて差し上げよう。

- 一つ、うさんくさい双子や意地汚い女にあったら迷わず逃げなさい。
- 一つ、拾い食いはしてはいけません。
- 一つ、愛する者は迷わず撃ち殺しなさい。それは敵です。
- 一つ、映画館は悪魔の巣です。近づいてはいけません。
- 一つ、衣服は清潔に。汚れかと思っただけのものだったりするかもしれません。
- 一つ、異性は敬いなさい。度が過ぎるのも考えものです。
- 一つ、口は災いの元。
- 一つ、国が滅びようと世界がなくなるとあなたには関係のないことです。
- 一つ、何事も普通が一番。異端は罪です。
- 一つ、日が暮れたら早く帰いなさい。

こんなところでしようか。
覚えられなくても別に気にすることはありません。
どうせ明日には変わっているルールなのですから。

[EVILS FOREST]
一つ言い忘れていました。
「この森であった人の言うことは信用してはいけません。」

2.master of the graveyard



最後は神まで、
残さず食べちゃ「ゲル♥」
足りない大罪 見えない終わり
森の墓場は、狂気の入り口
森に隠れた 敵は滅ぼせ
運ばれし悪女(おんな) 悪食娘

庭師の野望 それも一顧
今はこの身を、委ねてやろう
いつかあいつも 胃袋の中
腹黒い魔女(おんな) 悪食娘
しゃぶりに尽くしてしまえ！
悪意の全てを
永遠に終わらぬ悪夢(ナイトメア)
ひび開けたグラスに
注ぎこまれたく
赤黒いブラッド

食らい尽くしてしまえ！
あの世の全てを
永遠に終わらぬ晩餐
さあ迷い込んだ
哀れな侵入者の
調理を始めよう
しゃぶりに尽くしてしまえ！
悪意の全てを
永遠に終わらぬ悪夢(ナイトメア)
いつか来るであろう
終末の日まで
パーティーを続けよう

魔！杯！拝！這！取！背！肺！灰！×4
「オーホッホッホ！
ようこそEVILS FORESTへ。
まずは誰かになりたい？
煮込まれたい？
それとも...フアフ。
まあいいわ、ゆっくりしていきなさい。

[Graveyard party]
グラス・オブ・コンチータが生んだ3体の幻身。
欲深な侵入者は胃袋の中へ、

3.moonlit bear

暗い クライ 森の片隅
赤い アカイ 果実を抱った

これは キット 神様からの
素敵なステキプレゼント

持って帰れば喜ぶかしら？
帰してきて泣いちゃうかもね

今日は 月がとてもきれいな
早く ハヤク お家へ帰る

こんな暗い夜には
コワイ熊が出るから

せっかく見つけたのよ
ようやく見つけたのよ

誰にも タレニモ
決して渡したりしない

花咲く森の道 私に駆けつける
赤い果実を抱えながら

このまま帰れば 私もある人も
きっと幸せになれるはず

ところが後から 怖い顔をした
熊が私を追いかけける

お願い 許してください
見逃してください

わかっていたの 本当はこの果実が
あの熊の宝物だと

私は走る さまよい走る
この幸せは渡さない

熊の姿は 月に照らされ

黒い影が私に迫る

正しい道は すでに失い
それでも走る たただ走る
私は泣いて 熊も泣いていた
二つの果実も泣いていた

やっとなどどりの泣いた 愛しの我が家
彼は優しく微笑みだけど
私の抱えた 果実を見て
とても悲しい顔をしたのです

「いいかい
僕達の子供はもうすでに
この世にはいないんだよ
この子たちは本当の
お母さんの元へ返してあげなさい」

いつか果実が その牙と爪で
私自身を引き裂いても
その暖かい やさしい果実を
どうしても欲しかったの

神様私は 許されぬ罪を
この手で犯してしまいました
「今ならやり直せる」と
あの人は言うけど

「無理よ、だってもう…」

家の外で樹たわわは
一匹の熊(一人の女の)の亡骸
傍らには ミルクの満ちた
小さなガラスの小瓶…

[First episode]
数々の森の惨劇。
全てはここから始まった。

4.最後のリボルバー

サンタさんがくれた
実弾入りのリボルバーを
目の前に立つあなたに向けて

さよなら 愛しい人

もしやり直せるなら
また二人で夏祭りの花火でも
見に行きたいね
きつとすぐに会えるからね
ずっといっしょにいたいよねって
いつも言ってたもんね

ゴメン そんなこと
もう無理だってわかっているんだ
最初から二人は
全て違う人だから

桜の木の下で
「愚の私が出会った
あな達は正義 側の人でした
それでも 好きになった
人を撃つのはこれが
初めてではないけれども
泣きながら撃つのは初めてかな
お願い、悪いのは
全て私なんだから
そんな優しい顔をしないで
春に出会い涙に落ちた
夏にいつばい思い出作った
秋の夜にひとりになった
冬にすべて終わりを告げた
撃銃を起こし 指を引き金に
人差し指が 小さく震える
私は最後に「ゴメン」と言った
あな達は最後に…

[Good by my lover]
行方知れずの最後の「収束品」。
それを知る手掛かりとなるのか。それともただのエラーなのか。

5.ハートビート・クロックタワー

時計塔の、歯車の音
それは彼女が生きている証
この秒針が止まらぬように
見守るのが「僕」の役目

かつての主、物語の化身
自らの罪は、いつの日か
おのれ自身を滅ぼすのだと
どうして早く気づけなかったか

彼女の半身に今も残る
醜い傷の跡は
あの二人の思い出を刻んでる

今日もまた、迷い込んだ
何も知らぬ哀れな訪問者
彼らもすぐ「墓場の主」の
胃袋に収まることだろう

主役気取りの、あの「女の子」
いつも通りのわがまま三昧
「片割れ」を失ったさみしさ
少し顔に滲じながら

孤独な男が
その死の瞬間に作り上げた
森の奥の小さな映画館
忘れ去られたその時に叫り始めた
ぜんまい仕掛けの子守唄

「血染めの鉄」「紫色の刀」
いまだ目覚めぬ彼らを得つ日々
全ての唄が潮れたときに
理想郷は完成するらしい
時計の針が、止まることは

彼女自身の終わりを意味する
俯ついて欠けた歯車運
真された時間は長くない

孤独な男が
その死の瞬間に作り上げた
森の奥の小さな映画館
館長を務めるのは彼が最も愛した
「ぜんまい仕掛けの人形」

覚悟は決めた
僕は自らの左胸に
そっと手を当て深く差しこんだ...

僕のぜんまいは
時計塔の歯車と響き合って
そして新たに始まる物語
時計の針が止まらぬように
廻り続けるのが僕の役目

[Clockwork lullaby4]
「収集品」達はそれぞれが主演であり、脇役である。
私は彼らの為に、ただひたすら物語を書き続けるだけだ。

6.尾尾坂の仕立屋

尾尾坂の片割にある
仕立屋の若き女主人
気立てのよさと確かな腕で
近所でも評判の通

そんな彼女の悩みごとは
愛するあの人の浮気症
「私というものがあつたから
家に帰ってきやしない」

だけど仕事は頑張らなきや
鉄を片手に一生懸命
母の形見の最縫針
研げば研ぐほどよく切れる

今日も町はいつもの通り
嗚呼憂やかで平和な日常
大通りであの人を見かけた
隣の女はいったい誰?

赤い着物がよく似合う
美しい女と仲むつまじく
歩く姿を羨まされず
その場所をすぐ離れたの

だけど仕事は頑張らなきや
鉄を片手に一生懸命
頬を涙で濡らしながら
着物の縫直しに精を出す

町は何やら不穏な空気
何か事件がおこったらしい
橋の前であの人を見かけた
隣の女はいったい誰?

落ち込んだ様子のある人に

寄り添う髪のをきれいな女
縁の中がとてめ似合うわ
あそこなんな子が好きなのね

だけど仕事は頑張らなきや
鉄を片手に一生懸命
年々の修繕に精を出す
町はいかに賑わい始めた

再び事件があつたらしい
かんざし屋であの人を見かけた
隣の女はいったい誰?

年端もいぬぬ女の子に
黄色いかんざし買いつけて
一体何をしようというの?
本当に見境がないのね

だけど仕事は頑張らなきや
鉄を片手に一生懸命
鉄の色、こんなだったかしら?
今日も仕事に精を出す

ようやく仕事も一段落した
会いたくてくれないのならば
こちから会いに行きましょう

赤い着物、縫の帯
黄色いかんざし、髪に挿して
あなただけの女になつたわ
どうわたしをきれいでしよう?

今日は町中が大騒ぎ
今度は男が殺された
これで家族4人が全て

[Leviathan slope]
嫉妬の象徴、「収集品」カヨの軌。
落ちない汚れ、しかし決して断つことはない。

7.ヴェノマニア公の狂気

今日もまた美しい淑女が
僕の元へ訪れる
微笑みを浮かべる貴女は
新しい妻となる
禁断の悪魔との契約
手に入れた この刀
僕を見た 全ての女は
魅了され 全てでいく

女性を魅了する力を手に入れた
男は一人住む屋敷の地下室に
気に入った女を次々と連れ込み
ハーレムを作り上げた

毒を秘めたリビドーの味
突き刺した刃の快楽
血と汗は混じり合いやがて
紫の滴へと変わる

服を脱ぎ捨て抱き合えば
現実へはもう二度と戻れない

燃やされた舌の肖像画
捨て去った過去の僕
誰しもが嘲り笑った
あの顔は忘れたい
俯らの可愛い娘を
抱き寄せてキスをする
彼女はその かつて僕のこと
馬鹿にした幼馴染

ある日を境にして国中の女が
いつしか次々と行方をくらませた
あるものは女房 あるものは娘を
失い速方に暮れた

闇に染まるリビドーの色
とどまらぬ無限の情欲
幻想は全てを呑み込み
僕はもう人ではなくなる
神に逆らい 堕落する
これが僕の望んでた狂気のnight

今日もまた美しい淑女が
僕の元へ訪れる
さあおいで僕の胸の中
踊ろうよこのハーレムで
近づいた貴方を抱きしめ
微笑んだその瞬間
突然の鋭い痛みと
血に染まる僕の胸

消えた恋人を探してた若者
居場所を突き止めた
悪魔の住む屋敷
若者は女装して悪魔に近づいた
僕の刀を悪魔に突き刺した

毒を秘めた刀が刺さり
僕はその場に倒れこんだ
血と汗は混じり合いやがて
紫の滴へと変わっていく
衝のどけた女は全て
我に返り屋敷から逃げ出した
僕のこと一瞬だけ見て
最後に屋敷から出たのは

あの幼馴染
待ってよ
まだ君に好きだと言っていない

[Dance with Asmodeus]
「収集品」の一つ、ヴェノムソード。
刃は今日も妖しく輝く。

8.無口な君へ

買い物帰りの午後
家までの短い帰り道
君が言った言葉は
「うん」と「そうだね」の二つだけ

二人でいること
当たり前になってきた毎日
握った手の温かさに
それもいいかなと思った

無口な君にも
今は不満なんてないけれど
愛おしい気持ち忘れないうため
欲しい言葉もある

他に何もいらない
お金もいらない
デートはたまにはしてほしいかな
一回だけでもいい
言葉にしてほしい
「好き」と言ってほしい

「なにか喋ってよ」
感情ばかり言っていた時もあったね
二人だけでいるときの
静寂がだめな時もあった

やがて日々は過ぎ
二人だけの時間重ねて
言葉なんかなくなつて
通じ合えるんだとわかった

家まではもうすぐ
突然立ち止まった君が

ぽつんと言った一言は
一生忘れない
他に何もいらない
君が一緒なら
料理が下手なのは少し許して
言葉もいらない
そう思ってたけど
やっぱりうれしいね
「好き」と言ってくれた

[His word]
これは未来か妄想か。

9.白ノ娘

「生きていてごめんなさい」
いつのまにか口癖
弱音ばかり吐いていた
つまらぬだけの人生
村の人たちは皆
きれいな緑の髪
仲間外れの私
人と違う白い髪
森の奥で密かに
そびえ立つ千年樹
私はここで一人
神に願いをかけた
孤独に生き続けること
それはとても寂しい
友達になつて欲しい
彼女と出会ったのは
千年樹のすぐそば
倒れていた彼女を
助けたのが始まり
いつのまにか二人は
とても仲良くなった
だけど私と彼女
何もかもが違った
村の中の誰より
きれいな緑の髪
その優しい声と笑顔
誰からも愛された
どうしてこんな私にも
優しくしてくれるの？
自分より劣る女を
傾けこんでるつもりなの？

卑屈な私を抱きしめて
彼女はささやいた
「あなたは誰より
素直な人よ」
涙がこぼれた
たとえ世界の全ての人
私を蔑み笑っても
必要としてくれる人がいる
それだけで幸せだった
二人で村を飛び出して
街で暮らし始めた
不慣れた生活でも
精なら大丈夫
裕福な商人の
婦人の使用人
生きるために運んだ
私たちの仕事
ある日屋敷で見かけた
青い髪の優男
あいつと彼女の出会いが
全てを狂わせた
神の向こうの国の王
彼は彼女を深く愛し
隣の国の王女の
求婚を拒んだ
国は戦火に包まれた
王女が下した命令
「緑の髪の女は全て
殺してしまいなさい」
みんなみんな
いなくなってしまうた

白い髪は私以外
彼女の代わりに
私が死ねばよかったのに
どうして
どうして
「生きていてごめんなさい」
いつのまにか口癖
弱音ばかり吐いていた
つまらぬだけの人生
村の人たちは皆
きれいな緑の髪
仲間外れの私
人と違う白い髪
森の奥で密かに
そびえ立つ千年樹
私はここで一人
神に願いをかけた
孤独に生き続けること
それはとても寂しい
友達になつて欲しい
彼女と出会ったのは
千年樹のすぐそば
倒れていた彼女を
助けたのが始まり
いつのまにか二人は
とても仲良くなった
だけど私と彼女
何もかもが違った
村の中の誰より
きれいな緑の髪
その優しい声と笑顔
誰からも愛された
どうしてこんな私にも
優しくしてくれるの？
自分より劣る女を
傾けこんでるつもりなの？

王女の背中に向けて
振り上げた
あなただけに謝らなければ
いけないことがあるの
私結局あなたと
仇はどれなかった
あの娘は昔の私
ととてもでも孤独な人
ひとりで生き続けること
それはとても寂しい
なにもできなかったあの娘
少し無理がまわった
今日のおやつはプリオリッシュ
とつてもうまく焼ける
あの時あの海辺で
一瞬見えた幻
あの少年はいったい
誰だったのかしら？

[Bystander]
古き千年樹はただ、悠然とそびえ立つ。
新しき千年樹はただ、悠然とそびえ立つ。

10.ネジと歯車とプライド

創り出すために選られた
同じ姿 等しく愛されるために
シリアルナンバー「BMD 2」の私
自覚めたのは コミ処理場の中
また一人 扱ひ込まれてきた
不良品は必要とされないの
逃げ出すのは 不可能なこと
「愛されるべき玩具に
個性などいらない」
「量産型は量産型らしく」
その規律を乱す私たちの存在
彼らにとってそれは許されぬこと
鉄屑に埋もれてた
ネジと歯車とプライド
それが当たり前なら
どうして私たちは生まれたの？
自我を手に入れたイレギュラー
そんな私たちの出会いは
虚飾の世界で起きた
一つの奇跡の始まりでした…
知っていた 外に出るルート
鍵のない 壊れかけの排気口
どうしてみんな
誰一人 動こうとしないの？
知っていた 外の世界のこと
どうしてここにいてこんなんでないの
だけじゃあな 一生懸命なのね
ほんの少し 考えてあげる

「勘違いしないでよ
別にあなたの為じゃないんだから」
「うん、わかってるよ
どうもありがとうね」
さあ今始まる私たちの戦い
ゴミ処理場から新しい世界へ
普通に生まれたなら
幸せに生きられたかな？
不良品の私たち
本当に誰にも愛されないの？
それを確かめるために今
二人でここから抜け出そう
虚飾の世界で起きた
一つの冒険の始まり
やがて訪れる
いくつもの出会いと別れ
やがて君たちは
多くのことを学ぶ
普通とは何か
それは正しいとはただ
ただ正しいとはただ
ひたすら走り続けよう
鉄屑に埋もれてた
ネジと歯車とプライド
それが当たり前なら
どうして私たちは生まれたの？
自我を手に入れたイレギュラー
そんな私たちの出会いは
虚飾の世界で起きた
一つの奇跡の始まりでした…

[Another clockwork]
稀に紛れ込む異世界の物語。
いまだ不安定なぜんまいが原因かもしれません。

11.トワイライトプラंक(feat.鏡音リン・レン)

なにもないところで
突然つますいて泣き出した
大丈夫 それはきっと
悪い夕暮れのいたずらよ
早く帰らなきや
暗くなる前に
水平線の向こうで
アクマがニコリと笑ってた
「私の黒いお腹に
君たちを入れて遊ぼうよ」
早く帰らなきや
食べられる前に
砂浜に隠してた
小さな相は
夜の闇 包まれて
もう二度と見つからない
夕焼けを二人で
半分ずつ分け合おう
私は昼 僕は夜
手をつなげばオレンジの空
三度目の鐘の音は
アクマが目を見ます合図
物渡しそうな顔をして
ジロロとこちらを見つめてる
私のおややつは
あげないからね!
お腹が空いたとアクマが
とても悲しそうな顔をした

[Day and night]
彼はもうこの映画館にはいない。
ならばこれは誰の記憶?

EVILS FOREST

superbia

invidia

ira

acedia

avaritia

gula

luxuria

presented by
the heavenly yard

music&lyric:
mothy

arrange [track 10]:
ゆにめも

illustration:
鈴ノ助

